

概要	内容	本報告書参照事例番号
治療・処置	<p>眼科手術の際の眼内レンズの間違いに関連した事例が報告された</p> <p>手術患者のため、近視、遠視の2種類の眼内レンズを用意した。手術前日、患者と相談の上、近視用レンズを使用することを決定した。夜、担当医は伝票に記載する際に誤って遠視用眼内レンズの度数を転記した。手術当日、誤って記載された伝票のもと用意された遠視用眼内レンズを挿入した。</p>	該当なし
	<p>挿入予定の眼内レンズはA社SA60AS+22.0Dであったが、手術直前に主治医が用意したものはB社VA60BBR+22.0Dであったため、執刀医が別の医師に口頭で変更を指示した。指示を受けた医師と看護師の2名でレンズを確認し用意したものがA社SN60WS+22.0Dであった。挿入直前の確認の際に執刀医が誤りに気づき、SA60AS+22.0Dへの変更を指示した。その際、指示を聞き間違えてSA60AS+12.0Dを用意した。その結果、間違ったレンズを患者に挿入した。</p>	該当なし
治療・処置	<p>歯科診療の際の部位間違いの事例が報告された</p> <p>左上顎第1小白歯(24番)および第2大臼歯(27番)の抜歯手術の予定であったが、第1大臼歯(26番)が欠損しており、欠損域が広がったことから、第2小白歯(25番)を第1小白歯(24番)と思い込み、第2小白歯(25番)と第2大臼歯(27番)を抜歯した。当該科では後方から歯を確認する方法が用いられていた。</p>	該当なし
療養上の世話	<p>禁忌食品の配膳間違いの事例が報告された。</p> <p>食事摂取後、洗面台で意識レベル低下している患者を発見した。すぐ意識は回復したが血圧が下がっていた為、処置を施行した。約1時間後、上肢に発赤が出現した為、患者に尋ねると「朝食に出ていた牛乳を好きだから飲んだ」と返答した。入院時より乳製品はアレルギーの為、患者にとって禁止食品となっていたが、誤って配膳されていた。患者は以前にも牛乳を摂取したことによりショックになった経験があった。</p>	該当なし